

国分寺 ★

2010年12月の例会で訪れたことがあります、その時とは逆コースで国分寺周辺を歩きます。

月 日 **6月28日(火)** 予備日 5月29日(水)

集 合 **JR 西国分寺駅 改札前 13時30分**

コース 西国分寺駅 … 東山道遺構再生展示 … 東山道武蔵路跡 … 武蔵国分寺公園
… 真姿の池湧水群 … 武蔵国分寺跡 … お鷹の道 … 殿が谷戸庭園 …
国分寺駅 (解散)

約4kmの歩きやすい道です。

注) ⇒ 公共交通機関 … 徒歩

みどころ

東山道 … 7世紀後半から8世紀前半にかけて整備された都と地方の国府を結ぶ幹線道路(七道)のひとつである。武蔵路は武蔵国が東山道に属していた時代に、都から信濃国や上野国を経由して東へ走る東山道本線から分岐して、武蔵国へ南下するための支路である。

2020年12月例会で歩いた旧鎌倉街道もすぐ近くを通っている。

武蔵国分寺 … 天平13年(741年)、聖武天皇は鎮護国家を祈念して、諸国に国分寺と国分尼寺を建立するように命じた。武蔵国では国府(現府中市)に近く、都に通じる東山道沿いの地が選ばれた。国府とともに政治・文化の中心として栄えたが、鎌倉時代末の「分倍河原の戦い」で焼失した。大正11年に国史跡に指定された。

真姿の池湧水群 … 国分寺崖線(ハケ)には多くの湧水地があるが、その一つである。嘉祥元年(848年)、絶世の美女・玉造小町が思い病に苦しみ、国分寺の薬師如来に祈ると、一人の童子が現れ池の水で身体を洗うように言った。小町が身体を洗うとたちまち病気が治癒し、元の美しい姿に戻ったという伝承から、この池を「真姿の池」と呼ぶようになった。

お鷹の道 … 江戸時代に尾張徳川家のお鷹場だったことに由来して「お鷹の道」と名付けられた。清流沿いの気持ちのよい遊歩道である。

殿が谷戸庭園 … 国分寺崖線とその下端部付近の礫層からの湧水を利用し、雑木林の風致を活かして作られた近代の別荘庭園である。三菱合資会社の社員で、後に南満州鉄道副総裁から貴族院議員にもなった江口定條がこの地に別荘を構え、後に三菱合資会社の取締役であった岩崎彦彌太が買い取った。昭和49年に都が買収し、有料庭園として開園した。

小島 恕雄

〒202-0022 西東京市柳沢 1-11-2

電話 042-427-5032

携帯 090-1131-0768

メールアドレス mogaribuester@gmail.com